発行にあたって

新潟県医師会理事（救急医療部長）
小　林　　勲

小生は平成16年10月の中越地震と平成19年７月の中越沖地震を柏崎市で病院勤務医として体験した。特に中越沖地震では地域の唯一の基幹病院として直接の被害を受け、ＤＭＡＴを始めとする多数の医療支援チームの援助を県内外から受けた。また周知の如く、柏崎市、刈羽村には世界最大の原子力発電所があり、この施設も多大な被害を蒙り、一時は放射能汚染の風評被害で世界的規模で大騒ぎとなった。幸いなことに放射能汚染は発生しなかったことから、病院職員はじめ地域の住民は大きな不安を持つことは無く地震対応に専念することが出来た。

しかし今回の東日本大震災は地震、津波、放射能汚染、国際的風評被害とこれまでにない複合大災害である。総てのことが想定外であると云っても過言ではない。県医師会として今回の震災に対する対応は十分であるとは決して云えない。これまでの経験に基づいて作成した災害対策マニュアルは、県内の想定内の震災に対する対応内容であり、今回のような県外でしかも想定外の大地震に対するマニュアルではなかった。さらに県医師会に限った対応マニュアルであり、県行政、看護協会、薬剤師会等の他医療職種との連携は殆ど含まれていなかった。今回の震災で如何に他職種との連携が大切かを痛切に感じた次第である。

このたびの想定外の大震災を経験したお蔭で、今後の複合大災害に対する医療対策を整備するうえで大いに参考になると思われる。“災い転じて福となす”の諺を大いに生かさなければならないと感じている。今回の震災への対応策の不備な点を体験者から挙げてもらい、今後の改善策を立てる上での糧とするつもりである。この報告書を参考にして出来る限り早い時期に、県医師会の複合災害時活動マニュアルを完成させたいと思っている。